

# 「鏡花全集」 目録開口

芥川龍之介

青空文庫



鏡花泉先生は古今に独歩する文宗なり。先生が俊爽しゅんさうの才、美人を写して化を奪ふや、太真閣前たいしんかくぜん、牡丹ぼたんに芬芬ふんふんの香を発し、先生が清超の思、神鬼を描いて妙に入るや、鄒湛宅外そうたん、楊柳しょうしうに啾啾しうしうの声を生ずるは已すでに天下の伝称する所、我等亦多言するを須もちひずと雖いえども、其の明治大正の文芸に羅曼主義ロマンの大道を打開し、艶えんは巫山ふざんの雨意よりも濃に、壯は易水の風色よりも烈なる鏡花世界を現出したるは啻ただに一代の壮挙たるのみならず、又実に百世へいえんに炳焉へいえんたる東西芸苑げいえんの盛観と言ふ可し。

先生作る所の小説戯曲随筆等、長短錯落さくらくとして五百余編。経けいには江戸三百年の風流を呑どんきやく却して、万変自ら寸心に溢れ、緯ゐ

には海東六十州の人情を曲尽して、一息忽ち千載に通ず。真に是れ無縫天上の錦衣。古は先生の胸中に<sup>あつま</sup> 輳つて<sup>らんぎよく</sup> 藍玉愈<sup>おんじゆん</sup> 温潤<sup>おんじゆん</sup> に、新は先生の筆下より<sup>ぼうしゆ</sup> 発して<sup>さんぜん</sup> 蚌珠益粲然たり。<sup>しかのみならず</sup> 加之<sup>し</sup> 先生の識見、直ちに本来の性情より出で、<sup>つと</sup> 夙に泰西軌<sup>ばんきん</sup> 近の思想を道破せるもの<sup>すくな</sup> 勘からず。其の邪を罵り、俗を<sup>わら</sup> 嗤ふや、一片氷雪の気天外より来り、我等の眉宇を<sup>びう</sup> 撲たんとするの概あり。試みに先生等身の著作を以て<sup>フランス</sup> 仏蘭西羅曼主義の諸大家に比せんか、質は<sup>けいてん</sup> 撃天七宝の柱、メリメエの巧を<sup>べ</sup> 凌駕す可く、量は拔地無憂の樹、バルザツクの大に<sup>けんずる</sup> 肩随す可し。先生の業亦<sup>まおほ</sup> 偉いなる哉。

先生の業の偉いなるは<sup>もと</sup> 固より先生の天質に出づ。然りと<sup>いへど</sup> 雖も、其一半は<sup>こつこつ</sup> 兀兀三十余年の間、文学<sup>ざんまい</sup> 三昧に精進したる先生の勇

猛に帰せざる可からず。言ふを休めよ、騷人清閑多しと。瘦容そうよう  
 豈詩魔あじまの為のみならんや。往昔自然主義新に興り、流俗の之に雷  
 同するや、塵霧じんむぼしほ屢高鳥を悲しましめ、泥沙でいさきり頻ひりに老龍を困しましむ。  
 先生此逆境に立ちて、隻手ロマン羅曼主義の頽たい瀾らんを支へ、孤節こせつ紅葉こうえふ  
 山人の衣鉢を守る。轆軻かんか不遇の情、独往大歩の意、俱ともに相見する  
 に堪たへたりと言ふ可し。我等皆心しん織しき筆ひつ耕かうの徒、市りに良驥やうきの  
 長鳴を聞いて知己を誇るものに非ずと雖いへども、野のに白鶴くわいひの廻くわいひ飛ひを  
 望んで壮志を鼓こせること幾回なるを知らず。一朝天風妖えうふん氣きを払  
 ひ海内の文章先生に落つ。噫あゝ、嘘、先生の業、何ぞ千万の愁うれひ無なく  
 して成らんや。我等手を額ひたひに加へて鏡花樓上の慶雲を見る。欣きんく  
 懷わい破願わいを禁いず可いからずと雖いへども、眼底又涙無なき能よはざるものあり。

先生今「鏡花全集」十五卷を編し、巨靈きよれい神斧しんぷの痕あとを残さんと

するに当り我等知を先生かたしけなに辱かたじけなうするもの敢て劣せんれつの才を以て参さ

んていかうつゝ

丁校対しやうどうの事に従ふ。微力其任に堪へずと雖も、当代の人目を

聳動しやうどう

したる雄篇鉅作は問ふを待たず、治あまねく江湖あまねに散佚さんいつせる

ばんくわ

万顆ばんくわの零玉れいぎよく細珠さいしゆを集め、一も遺漏ゐろう無まからんことを期せり。

先生が独造の別乾坤べつけんこん、恐らくは是より完まつたからん乎。古人曰「欲き

はまらんとほつすせんりのめさらにいっそうろうをのぼらん

窮千里眼更上一層楼」と。博雅の君子亦「鏡

花全集」を得て後、先生が日光晶徹の文、哀あいくわん歡さうさう双さうさう双さうさう人生じんせいを

照らして、春水欄前に虚碧きよへきを漾ただよはせ、春水雲外らんせいに乱青らんせいを畳め

る未曾有の壯觀ほしいままを恣ほしいままにす可し。若し夫れ其大略を知らんと欲せば、

「鏡花全集」十五巻の目録、悉載ことごとくせて此文後に在り。仰ぎ願くは

瀏覧<sup>りうらん</sup>を賜へ。

(大正十四年三月)





# 青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集第五卷」筑摩書房

1971（昭和46）年7月5日初版発行

入力：山田豊

校正：菅野朋子

1999年5月26日公開

2004年2月27日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランテイアの皆さんです。

# 「鏡花全集」目録開口

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>